

耳をすませば



3月3日は「耳の日」です。

「3（み）3（み）」と 語呂的に覚えやすいのと

数字の「3」が耳の形に見えることから、耳の日になりました。

「耳」を含む故事やことわざ・慣用句などはたくさんあります。

例えば「馬の耳に念仏」「壁に耳あり障子に目あり」「聞き耳をたてる」

「寝耳に水」「耳が痛い」「耳を疑う」「右の耳から左の耳」

「馬耳東風」「地獄耳」「忠言は耳に逆らう」などなど。。

今回は耳に関連する図書を紹介します。



◆『埼玉のトリセツ』（地図で読み解く初耳秘話）

昭文社 2020年

このトリセツ（取扱説明書）はシリーズ化されています。

地図や鉄道、歴史においては古代から近現代史まで、産業や文化、細かい市区町村のデータや空撮のグラビアで紹介しています。



◆『昭和の怪物－日本の闇を牛耳った120人の生きざま』

別冊宝島編集部／編 宝島社 2019年

戦後、昭和という時代を生き抜いた人々が、団体や集団においてリーダーシップをとり、中心人物となってその組織を自分の思い通りに動かしました。

政治など権力渦巻く世界での実力者たちは、人の心を惹きつける魅力があるように、さまざまなエピソードから彼らたちの人生がよみがえってきます。





◆ 『きらめく拍手の音—手で話す人々とともに生きる—』

イギル・ボラ／著 矢澤浩子／訳 リトルモア 2020年

音を聞き取る能力に障害がある両親のもとに生まれた、韓国の映画監督が、ドキュメンタリー映画を撮りました。

必然的にストーリーテラー（物語の語り手）となった著者が、ろう文化と聴文化の二つの世界を経験した出来事を記しています。



◆ 『歴史からでも楽しい！おもしろ日本音楽』

釣谷真弓／著 東京堂出版 2021年

古代における楽器と祭祀の間には深い関係がありました。平安期には貴族による雅楽の完成があり、武士社会においては能楽が確立しました。また、江戸時代には三味線や歌舞伎が誕生し、人形浄瑠璃や尺八などにおいて音楽が発展していきました。

さらに近現代においては、西洋音楽に対する邦楽界の混乱ぶりなどを紹介しています。

写真や図版で詳しく解説し、各時代の日本史の出来事と芸能・音楽の年表も載っています。



◆ 『おなかぺこぺこオノマトペ

—擬音語・擬態語をバイリンガルで理解しよう！』

木野鳥乎／著 千倉書房 2019年

キュン…

オノマトペとは、物や生物が出す音を表した擬音語と、物の状態や心情を音で表現する擬態語の総称です。

和英で表記されているので、日本を訪れる観光客や外国人の方向けへのプレゼントにもなります。



編集・発行：さいたま市立与野図書館
さいたま市中央区下落合 5-11-11
TEL 048-853-7816 FAX 048-857-1946

2023年(令和5)3月発行